

事業所名 グループホームいやしの家備前
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 2月 1日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 看護師、介護支援専門員
資格・経験 看護師(37年以上)、介護支援専門員
B: 現職 介護支援専門員
資格・経験 音楽療法士、介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>「基本的人権の保護」、「家庭的な生活」、「生きがいのある生活」が基本理念である。</p> <p>1)「基本的人権の保護」としては、入居者の意見が一番と考へ、「介護を受ける者」ではなく「生活の主体」として尊重し、職員は「介護提供者」ではなく「生活のパートナー」として入居者の今までの生活をできるだけ崩さず、好きなことができるよう支援している。</p> <p>2)「家庭的な生活」としては、優しさをモットーに、自分の身に置き換え、自分の両親がされて嫌なことはいないように心がけている。入居者同士で、「世話好きな方」と「他の入居者からの世話を受ける方」という絶妙な関係が出来ている場合は、職員はあえて介入せず見守るようにし、「気持ちの上での家庭的な生活」を大切にしている。</p> <p>3)「生きがいのある生活」としては、その方が興味があることを張り合いを持って出来るよう、自立支援を目指している。入居時には下肢の力が弱って何もする意欲がなかった方が、車いすから歩行ができるようになり、他の方のお世話をされていた。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>1)居間はガラス張りでの展望も良くメインリビングに隣接した畳スペースには炬燵があり、横になり自由にくつろぐことができる。ゆったりとしたソファもあり、共有空間の中にも自分の好きな場所にくつろげる空間がある。</p> <p>2)中央にキッチン・浴室・洗面・脱衣室・トイレ、その周りを手すり付きの廊下が巡回しており、自由に歩ける工夫がしてあった。外の畑も広く、畑の手入れやフェンス内を自由に散歩でき、入居者は楽しみながら動ける。</p> <p>3)入居者の表情に満足そうな感じが見られうのは、個人に合った生活のリズムを大切に、できるだけ今までの生活スタイルを続けられるよう、一人ひとりのペースに合わせた温かい見守りのケアによると思われる。</p> <p>4)当日は寒い日で、入居者はほとんど居間で過ごされていた。入居者と職員が楽しみながら歌を歌うなど、常に誰かと何かを楽しみながらしている様子が窺えた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

調評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>1)焼き物の町というたたずまいの中にあるホームで、近くには備前焼の陶芸美術館があり、焼き物の煙突も見える。伊部駅より徒歩5分、近くにスーパーや小学校、警察署などもあり、利便性もある所に位置している。日当たりが良く、高齢者の身体的状況や生活パターンをよく理解したホームの設計で、設備も整っている。</p> <p>2)入居者、介護者ではなく、お互いをパートナーとして存在を認め合い、新しい家族としての関係作りに努めている。常に笑顔と飽やさない職員の優しい声かけや入居者の明るい表情が印象的であった。</p> <p>3)個人を尊重して自然な日常生活が送れるよう支援しながら、職員もタイムスケジュールに追われることなく、入居者一人ひとりに寄り添い、残存能力をうまく引き出すような援助がされている。手伝ってもらった時には、「ありがとう、助かったわ。」と職員全員でお礼を言う事を徹底し、入居者それぞれが自信を持って過ごせるよううまく自立支援がなされていた。</p> <p>4)提携医療機関として草加病院、市立備前病院、松本歯科医院があり、緊急時の対応や入院もでき、医療との連携が取れている。</p> <p>5)代表者が土地の方で地域との連携が取れており、ボランティアの訪問や近隣の方がお茶を飲み気軽に立ち寄られるなど地域に開かれたホームである。</p> <p>6)入居者の楽しみの一つであるからと食事には特に力を入れており、料理教室で教えられた経験もある代表者の親族がボランティアで献立や調理方法をアドバイスされており、栄養のバランスが良く、味や軟らかさもとても良いと感じた。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<p>1)以前は定期的に便りを発行していたが、個人情報観点から問題になるのではと現在は中止されている。今後は工夫の上、再度発行する予定とのこと。</p> <p>2)現在も介護計画のアセスメントに日常生活活動内容が具体的に把握され、計画に反映されているが、さらに書式の工夫をされる予定とのこと。</p>

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	ブライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目
一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)
<p>1)管理者・職員は、入居者の過去の経験の中から入居者の出来ることに目を向け、好きな事・得意な事は何かを考へ、それをする事によって豊かな感性を取り戻すようにし、職員と共に生活を楽しくしていけるよう気配りをしている。</p> <p>2)生活をこなす中でそれぞれの残された力を大切に、一人ひとりが何らかの役割を持って暮らせるよう配慮している。洗濯物をたたんだり、掃除をしたり、食事の後片付けをされたりしていた。牛乳を配る・新聞をたたくなどの役割もある。</p> <p>3)管理者・職員は、入居者が間違ったことを言われても否定せずに聞き、それなりに認めてプライドを傷つけないようにし、入居者に寄り添う介護に努めている。</p>

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目
サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)
<p>1)入居者の個人記録は、第三者から見ても日頃の状況が読み取れる記録で、希望される家族には情報公開し、職員・家族が協力して問題点の気づきに努めており、入居者の状態の安定向上に向けて関心が高い。</p> <p>2)3ヶ月に1回の割合で本社から講師を招いて研修を行い、その感想をレポート提出し、職員の継続教育による自己研鑽に努めている。</p> <p>3)「いやしの家」として、岡山市と備前市に3ヶ所のグループホームを展開しており、お互いに情報の交換や勉強会を持ち、サービスの向上に努めている。</p> <p>4)トラブルの発生を繰り返さないために、事故は軽いものでもインシデントレポートに記録し、ケースの振り返りから再発防止への対策を職員全体で検討している。今のところ重大な事故は発生していない。</p>